



# 麻生のまちづくり



麻生まちづくり市民の会広報

第5号 2004年3月

## 先進の市民活動組織に学ぶ

私たちのまちを私たちの手で、さまざまな団体やグループの人々が麻生のまちや暮らしの課題に取り組んでいます。

麻生まちづくり市民の会はこのような活動を推進、支援するためのしくみづくりに取り組もうとしています。そのために先進の4施設、

民設民営のアリスセンター、公設民営の横須賀市立市民活動サポートセンター、公設公営の世田谷まちづくりセンター、公設民営の長池ネイチャーセンターのそれぞれの特色を学び、これからの活動に反映させて行きたいと考えています。



世田谷まちづくりセンター



横須賀市民活動サポートセンター



アリスセンター(横浜ワールドポーターズ内)



長池ネイチャーセンター

麻生まちづくり市民の会、今後のスケジュール (どの会も傍聴が出来ます。会場は区政推進課に問い合わせ下さい)

- 運営委員会…………… 4月13日・27日(火曜日)14時から
- 実践部会…………… 4月2日(金曜日)18時30分から
- パートナーシップ推進部会… 4月5日(月曜日)14時から
- バックアップ部会…………… 4月7日(水曜日)15時30分から
- 総会…………… 4月17日(土曜日)13時30分から

## アリスセンター（NPO法人まちづくり情報センターかながわ）

アリスセンターは赤レンガパークやランドマークタワーなどがある観光スポットみなとみらい地区の商業施設、横浜ワールドポーターズ6Fにあります。1988年にスタートしたアリスセンターは、1994年に有限会社アリス研究所を設立。1999年にはNPO法人化しています。民設民営ですから、自主財源の確保・拡大が常に重要なテーマになります。事業高3,000万円のうち、2001年度は行政受託収入が68%、会費・寄付・自主事業収入は13%だったのが、2002年度にはそれぞれが35%、28%と自主財源の拡大に成功し、運営基盤の強化につなげています。では、自主事業の内容をみてみましょう。

- ・研修やコンサルティング：講師派遣料(50,000/回～30,000/回)
- ・業務委託料：40,000/人日～15,000/人日
- ・相談業務：市民活動相談(非会員3,000/h会員は無料)
- ・情報誌「たあとる通信」～季刊 1冊1,000円

事業委託は、神奈川県、横浜市、横浜各区、川崎市、電通など行政、企業の多岐にわたっています。また、事務局を受託しているのは現在はファイバースイッチネットワークなど。これまでもスタートアップ資金を始め、事務局支援などで団体を独立させるなどの中間支援組織の機能を果たしてきています。

スタッフの給与は手取りで15万程度とのこと。インターン生などがここから、教授、助教授、シンクタンクへと巣立っていっているそうです。

「NPOスクエア」は約60坪のオフィスに全部で19団体が入居しています。一番広いスペース(10坪)を借りているのがアリスセンター。ほとんどが1～2坪のスモールオフィス・スモールデスクの団体、グループ、企業組合などで、ここからさまざまなかたちの協働事業がうまれることが期待されています。

## 横須賀市立市民活動サポートセンター

施設に一步入ると大きウサギのぬいぐるみ"のたろん"が出迎えてくれます。このイメージキャラクターの名前は公募で決められましたが、その意味はnot alone(ひとりじゃないよ)ということです。1999年から公設公営の施設として開設されていましたが、2001年に「サポートセンターの運営をNPOの団体に」という方針のもとに、運営委託のための公開プレゼンテーションが実施されました。最高得点を獲得したNPO法人YMCAよこすかコミュニティサポートが運営を任されることになったのです。10名のスタッフ(嘱託5名、アルバイト5名)が意欲的に運営にあたっています。

利用時間は9時から22時まで。汐入駅のすぐ近くとい



う便利さとともに利用者にとっては利用しやすい時間設定です。782㎡という広いフロアは目的別コーナーに分かれています。ワーキングコーナーには印刷機、コピー機をはじめ、製本までの機器類が設置してあり、キッズコーナーもありました。情報コーナーの一角にはパソコンやビデオ編集機が設置してあります。さらにパソコンルームでは、市民講師による講座が活動団体のために開かれていました。運営の基本的な姿勢として、まず、市民活動を広く一般に知ってもらうこと、そして団体同士の交流・協働のために側面援助をすること。この2つを心がけているということでした。

また、そのためにも情報を確実に提供することも大きな役割と考えているとも。ただ、そろそろしかけづくり



をしてもいい時期にきているので、近いうちに「市民協働セミナー」を開催する予定があるそうです。

"若い世代の参加"はどこでも共通の悩ましい課題ですが、この点についても市民活動グループを取材する記者

になりませんかという呼びかけの中で、取材のイロハを学べますという付加価値をつけたところ、反響があったとのことで、さまざまな工夫と努力が垣間見られました。

## 長池ネイチャーセンター

八王子市大沢の地域貢献型施設『長池ネイチャーセンター』へ見学に行きました。NPO フュージョン長池がレギュラースタッフ3名で、1500万円の委託費と450万円の自主事業で運営しています。

長池公園の自然とふれあう自然体験学習施設です。長池公園の植物や昆虫、地域の歴史などの展示や講習などを通して、「自然」や「里山」について学習や体験をする

ことができます。

公園内には、めずらしい動植物や昆虫などが生息しています。また、みなさんが利用できる展示、レクチャールーム、工作室もあります。

平成13年7月1日のオープン以来、多くのボランティアインストラクターの方々による体験学習が実施されています。

## 世田谷まちづくりセンター

世田谷まちづくりセンター（三軒茶屋）は、〔財〕世田谷都市整備公社の一組織として作られた、住民・企業・行政が互いに協議して進めるパートナーシップ型まちづくりの推進を目的に、1992年4月1日につくられた公設公営の組織で、14名の専任スタッフがいます。12年もの長い運用の経験と蓄積をもち、この世界では良く知られている団体です。

世田谷まちづくりセンターは、年間6000万円の予算をもち「世田谷まちづくりファンド」と連携して、住民主体のまちづくりを支援するために7つのテーマを掲げています。1、住民主体のまちづくり活動の支援。2、まちづくり情報の収集と発信。3、まちづくり学習機会の提供。4、区の住民参加型まちづくり事業の支援。5、住民主体の市街地づくり活動の支援。6、住民参加の市街地づくり活動の支援。7、まちづくりの調査・研究です。

この組織のユニークな点は「世田谷まちづくりファンド」という方式です。一億三千六百万の基金をベースに、世田谷区内を対象にした市民のまちづくり活動に助成しています。1993年から10年間に、まちの緑化や公共の場づくりへの提案、子どもの視線から環境を考える、福祉マップづくりなど、延べ380グループに助成してきました。助成額は1グループに1年5万円から100万円を限度として支給されます。年間では500万円の予算を計上し、応募対象と支給額は毎年その活動内容が厳しく公開査定されて決定します。またこの支給をされた団体は、年2回発表の義務があり、発表の場からコ

ミュニケーションや交流が生まれています。

これらの団体が利用できる場所は、30名程度が収容できるプレハブが近くにあり、ファンドに登録されたグループは曜日に関係なく9時から22時の範囲を3区分し無料で使用できます。また印刷は用紙は自前ですがあとは無料で使用できます。

一方、世田谷まちづくりセンターは、これらの活動の実績と蓄積をもとに自主事業として、各種の有料セミナーを開催し昨年度は350万円の収入を得ています。さらに、まちづくりのバイブルとも言えるような図書の出版も行っており、これも年間720万円もの売り上げがあります。

世田谷都市整備公社という組織の中に有りながら、特殊性を感じさせないよう努力をし、世田谷区と市民の間に立って良い関係と位置を保っていると言っています。



## 第二回・市民自治創造・かわさきフォーラム “まちを耕す”に参加

2004.2.13～14、高津市民館などで開催。多くの市民が参加して、出合いや情報交換や交流をしました。

13日の延藤先生の講演はピアノの生演奏付きでドラマを観るような感動的なものだった。14日の分科会は7つ。どれも満席でした。まちづくりの分科会では、川崎市の7つに区が全く違った手法でまちづくりに取り組んでいました。小学校単位のまちづくりをしている川崎区、ビジョンから検討を始めた高津区。区全体をガーデンに見立てて「ガーデン区」構想でまちづくりをしている宮前区など。他区のいろんな「まちづくり」のやりかたを学びました。これは今後も続けることで、さらに深くまちを耕すことが出来るでしょう。



麻生まちづくり市民の会の説明をする碓井さん

## エコライフチャレンジ

緑・環境小委員会では、地球温暖化防止対策と現状」と題し(社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会理事の秋葉悦子さんを講師に迎え勉強会を行いました。区民一人ひとりが地球温暖化防止への貢献に取り組める「やさしいエコライ

フ・チャレンジ」の実践を、区民の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

## 福祉コミュニティー小委員会

麻生区に「赤ちゃんから高齢者まで、障がいの有無に関係なく」あらゆる住民が利用できるコミュニティー・ベースを作ることを目的とし、今年度は麻生の区既存コミュニティー・ベースと思われる5施設を見学しました。

コミュニティー・ベースのあり方について「利用者のバリアフリー化」等、おおよそのまとめを得ることができました。来年度からは具体的な「姿」についてのより深い考察を続けていく予定です。

## コミバス試乗記

実践部会・道路交通小委員会として試乗しました。百合丘駅前に、寸足らずの小田急バスが止まっていたのですが、コミバスの表示が解らない位でした。

9時からの営業なので、10時の時間帯に乗って見ました、我々の外1人だけで出発、高石で2人乗り、生田病院付近で、1人降りて2人乗った、南生田で3人降りた、帰途は生田病院付近で3人乗った、高石でも3人乗って百合丘駅について12人が降りた。半数位が我々の仲間でしたが、今回の企画から考え、常時この位の利用があるとすれば結構と思いましたが、それだけ利用者が多いのかも知れません。

絶対に変えて欲しいのは、車幅が狭い車・100円にする事。但し今回の利用者は200円払った客は、我々の外は一人きりで、外の方は高齢者無料パスの利用者でした。難しい問題があると思いました。

**編集後記** 第5号は、「先進の市民活動組織に学ぶ」というテーマを特集しました。

市民の会も2年目を迎えますが、追加募集のメンバーを加えて活発な活動が期待できるものと思います(五十嵐)

発行：麻生まちづくり市民の会広報委員会  
連絡・問い合わせ先：麻生区役所区政推進課 電話965-5116